

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 山ノ内町立南小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 381-0402

長野県下高井郡山ノ内町佐野 1181-1

E-mail y-minami@valley.ne.jp

Website http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/minamisho.html

幼児児童生徒数 男子 60 名 女子 43 名 合計 103 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「素直に思いをかわし合う」を研究テーマとして、E S D をこれまでの教育活動の再編成と捉えなおしと考へ、E S D の実践を通して、子どもたちが、自らの思いを表出させていく力の育成を目標とした。

具体的には、生活科や総合的な学習の時間を柱に、①ウサギとの暮らしをつくる活動、②町名産のリンゴ作りと販売を体験する学習、③大豆にかかわる学習、④近隣の高齢者施設の利用者との交流を行った。

### ① ウサギとの暮らしをつくる活動

1 年生は生活科の時間を中心として、ウサギとの生活を行った。4 月に庭で使われていないウサギ小屋を見つけた子どもたちは、以前は学校にウサギがいたのではないかと考へ、教室の前でウサギを飼いたいと願った。牧場からウサギをいただき、5 月から子どもたちは毎日ともに生活をしている。名前の検討、フンの処理、えさ集め、遊び場作り、音楽会の歌づくり、遊び場の温度管理、「こんなふうにしてみたい」「この方がゲンキ (ウサギの名前) がうれしいと思うよ」など語り合いながら、ウサギも自分 (子どもたち) も楽しい学校にしたいと願って活動をしてきた。フンの処理については、秋頃から、クラスの友だちが大根を育てている、なかよし学級の畑に「フンって肥料になるんだよ」と語りながらまくようになった。その姿がどんどんクラス内に広がっていき、毎日フンを畑にまくようになった。12 月になかよし学級の畑で立派な大根がとれて、なかよし学級の友だちがプレゼントしてくれた。畑にフンをまく。

畑で大根が育つ。大根の葉をゲンキが食べる。大根を人間が食べる。そのサイクルを見た子どもたちは、「ぐるぐる回っている」「だからこの大根はぐるぐる大根だ」「来年はぐるぐる大根とぐるぐるニンジン育てるぞ」と願いをもった。子どもたちなりに循環型社会について目を向け始めた姿と感じた。

## ② 町名産のリンゴ作りと販売を体験する学習

2年生は、学校の敷地内にあるリンゴ畑でリンゴ作りの体験を行ってきた。国内有数のリンゴの名産地である山ノ内町。保護者の方にもリンゴ農家の方がいる。その方に教えていただきながら摘花、葉つき、収穫、袋詰め、販売を体験した。また、生活科の時間を中心に観察を継続し、木や実の日々の変化を見つめてきた。11月には保護者の方と共に、道の駅「北信州山ノ内」で収穫したリンゴの販売を行った。さらに購入した方との手紙のやりとりも生まれてきた。これらのことを通して、子どもたちは協力することのよさ、町の魅力、仕事に対する責任感、人とかかわることのおもしろさなどを体験的に学んだ。

## ③ 大豆にかかわる学習

社会科で地域探検に出かけた3年生は、以前は大豆を作っている人もいたということを知り、なぜ今はこんなにも大豆を育てている人がいないのかを疑問に思った。「大豆100つぶ運動」に参加し学校の畑に大豆をまいてみた。また、国語で「すがたをかえる大豆」を読んだ子どもたちは、大豆製品について考えたいと願い、信州ESDコンソーシアムの紹介でイオン中野店の見学に行った。2月には地域の味噌づくりをしている方を紹介された子どもたちは、その方に聞きながら味噌作りを行った。現在味噌は寝かせている段階だが、次年度以降の味噌を使った活動に期待を高めている。

## ④ 近隣の高齢者施設の利用者との交流

6年生は4年次から3年間継続して、「いで湯の里」との交流を続けてきた。運動会や音楽会に招待状を送ったり、年賀状を送ったり、訪問をしたりと継続的に行ってきた。子どもたちは、高齢者の多い地域だからこそ、高齢者が元気に暮らせる町にしたいと願うようになっていった。町では、路線バスの徹底に伴いコミュニティバスの「らくちんバス」が走るようになった。子どもたちは、そのバスの運行時刻を改善することで、お年寄りが外出しやすくなると考え、それを柱に、町の子ども議会での発表を行った。課題をとらえる力、その課題を解決するための方策を考える力が高まった。



※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

これまでの作成していたカリキュラムを基に、全学年で ESD カレンダーを作成した。その中で、教科・領域間の関連性を見直し、それぞれの教科・領域、単元がどのようにつながり、どのように学べば系統的にかつ、子どもの意識に沿って学習を進めることができるのかを全職員で考えた。また、作成した ESD カレンダーは構想段階から実際の活動でどのように変化したかが分かるように更新を行った。さらにコミュニティスクール運営委員会と連携し7月に全校で「かがやきタイム」と称して、地域を知り、地域を学ぶ活動を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

各学年で中核的な活動を作り、子どもと教師が共に思いをかける対象とのかかわりを大事に考えている。また、上にも書いたコミュニティスクール運営委員会との連携を密にし、教師だけでは難しい活動に地域の協力を得やすい環境を整えている。校内の研修で ESD を取り上げ、全職員に理解を高めようとしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

児童、保護者、職員にアンケートをとり内部評価を行う中で、地域とのかかわりや地域からの学びが子どもたちのよりよい育ちにつながっている手応えをもてた。その後、学校関係者評価委員会によって、外部評価を行った。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

1年生の活動が地域の新聞で紹介されることがあった。すると、「えさに困っていないか」と心配される地域の方が、野菜を学校に届けてくれることがあった。また、1年生は2月の信州 ESD コンソーシアム成果発表会で発表を行った。6年生は、上でも触れたが町の子ども議会で行政に対して活動してことの紹介や、高齢者がいきいき暮らすための提案を行うことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

信州 ESD コンソーシアムに協力をさせていただき校内研修を実施した。そこで ESD カレンダーの作成、年間カリキュラムの検討を行った。また、3 学年の社会見学では、コンソーシアムにイオン中野店を紹介していただき、クラスで取り組んでいた大豆の話を中心に学ぶことができた。

ESD 活動支援センターの主催の研修も紹介し、参加した職員もいた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200 字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

山ノ内町はすべての小中学校がユネスコスクールに登録されていることがあり、町内での交流がユネスコスクールの交流にもなっている。町の職員会や同学年会で情報交換を行っている。さらに、各校の研修に他校の職員が参加するなどの交流を行った。現段階では児童間の交流は十分ではないだろう。ただ、ESD コンソーシアム成果発表会の中で、他校と活動の様子を見あうことができた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200 字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

これまでの学校の教育活動の意味を改めて見直す機会を得ることができている。また、全国大会などに参加する中で、他校の実践に学ぶこともこれまで以上にしやすくなっている。教員が SDGs や GAP への理解を深めることで、子どもたち自身が、今取り組んでいることと、未来がどうつながるかの意識を向けるこちにとつながっているように思う。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

4~5月の段階で改めてESDカレンダーを作成し、各学年が一年間でどのような活動を展開していくかの見通しを持っていく。さらに、校内研究の柱にESDをすえて、全学級で中核的な活動を展開していく。低学年では植物の栽培や動物の飼育を通して対象とかかわることの面白さを十分に味わっていくことを大事にし、その経験を外に発信することを行っていく。高学年においては対象とかかわることで見えてくる、問題に対して今、自分たちがどうアプローチしていくことができるのかまで考え、対象と、人と社会とのつながりを大事に活動を進めたい。

まとめの段階での発信の仕方に課題があると感じているので、そこについては職員間で議論し、子どもたちの願いを大事に考え、実践を積んでいきたい。